

隨泉寺寺報

2001 年 10 月号

第 374 号

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

秋季永代経法座

講師 善正寺住職 木村善友師

講題 「つたわる心・つたえる心」

泣き酒の 父よ 敬老の日の父よ (有馬 去水)

9月の11日、広島カープが黒田の完封で勝ったというので、プロ野球ニュースが観たいと思って、テレビを点けました。ニューヨークの世界貿易センターが火事だと云う事で、あんな高いビルは、どうやって消火するのかなあと、不遜にも、すこし面白がって、見ていました。突然2機目の飛行機がビルに突っ込んで、大爆発をしました。これは映画なのかなと思いい、事態が理解できるまでに、時間が掛かりました。あっという間に何千人という尊い命が失われてしまいました。理由はいろいろ有ると思われませんが、しかしどうあっても、何の罪もない人々が、突然殺されると云うことは許されないでしょう。しかしその報復をまた必ずすると、アメリカは言っています。これではいつまでたっても、解決にはならないと思われまます。善悪は立場が変わると逆転します。絶対的な善、絶対的な悪はそれぞれ立場によって変わります。それはいつでも自分を機軸として考えているからです。いつ悪をしでかすか判らない私。それが親鸞聖人が云われる罪悪深重の凡夫です。

10月の法座予定

- 10月14日昼席午後1時より……秋季永代経法座
- 10月14日夜席午後7時半より……出張法座 荒野集会所
- 10月15日昼席午前10時より……秋季永代経・65歳以上の集い
- 10月15日昼席午後1時より……秋季永代経法座

お知らせ

アメリカ合衆国における同時多発テロ行為に対する総長談話

9月11日、世界貿易センタービル等におけるテロ行為によって、計り知れない人々が殺害されました。それに対して私たちは深い驚きと憤りをもつと同時に、すべての犠牲者に対し、哀悼の意を表します。

伝えられるように、今回の行為が一部の人たちによるテロ行為とするなら、誠に遺憾であり、暴力をもって自らの主張を通そうとすることは、決して認めることはできません。ましてや、無差別にまったく、無関係な市民を巻き添えにした今回の行為は絶対に許されることではありません。

私たちは、すべての人たちの「いのち」の尊厳を大切にする御同朋の社会をめざす立場からも、今回の行為に対して強く遺憾の意を表明します。

以上

平成13年9月12日

浄土真宗本願寺派

総長 武野以徳

志(こころざし)を大きく

私たちの国の名は 日本、それは日の出る本の国という意味です。飛鳥時代、堆古天皇の摂政だった聖徳太子は、当時、中国大陸を統一していた隋という国と国交を結ぼうと考えました。いわゆる遣隋使の派遣です。その『国書』の最初にしたためられたのが、「日出づる処の天子、書を日没する処の天子に致す。」という言葉。これを見た隋の王さまは、カンカンに怒ったそうです。小さな島国の主が、大国の皇帝に対して、なんという無礼だと思ったのでしょうか。しかし、太子のこの堂々たる態度が後に王さまを感服させ、対等な国交を開かせるもとになったといえます。

世界的テロの大事件の中、なにかといえ、アメリカの御機嫌を伺い、世界に取り残されないようにと無理をしているような現代の日本。日はまさに沈まんとしている感があります。こんな時こそ、日本国民としてのプライドを持ちましょう。決して卑屈になることはないのです。大いなる平和を求める国、大和(やまと)。”目には目を”と今にも戦争が起きようとしています。恨みは恨みによって消えない”事を主張し、仏教的な思考の「不殺生」をむねとし、『兵戈無用』のところで『私たち日本は、武力で国際紛争は解決できないと、戦争を放棄しました。真の平和はお互いの信頼の上に築かれる』と主張しましょう。

たとえ国土は小さくても、志は大きくあらねばならないと思うのです。

ありがとうございます。

特別永代経	一金 十万円也	谷口 政憲 様
特別永代経	一金 十万円也	小西 美枝子 様
門信徒会	金一封	谷口 政憲 様